

- ▶ 小笠原村では、固有種であるオガサワラグワを中心とした村民参加の森づくりプロジェクトを通じて、村民が小笠原の森を身近に感じられる場と機会を創出し、森林保全等への理解の醸成に取り組んでいる。
- ▶ プロジェクト内容は、オガサワラグワのクローン苗の育成、植栽予定地の環境整備、村民参加による植栽等のイベント実施、植栽した苗の育成・維持管理、植栽後のモニタリング調査など。
令和6年度以降においても、森林環境譲与税を充て、継続して森林普及活動を実施する。

事業内容

村民参加の森づくりプロジェクト

オガサワラグワは小笠原の森のシンボルの一つでありながら、明治期以降に多くが伐採され、個体数が減少し野生下での絶滅が危惧されている小笠原固有の樹木である。

小笠原村では、生息域外で増殖させたオガサワラグワのクローン苗を野生復帰させる「オガグワの森プロジェクト」・「ハハジマ森の道プロジェクト」を通じ、本種の保護保全を図った。また、小笠原諸島では、特異な生態系を保全するため各種の外来種対策等が行われている一方で、村民の中には、そうした取り組みに物理的・心理的な距離を感じるという声がある。オガサワラグワを中心とした在来種主体の森の再生を、村民参加・協働で取り組むことで村民の森林等への理解を醸成することを図った。

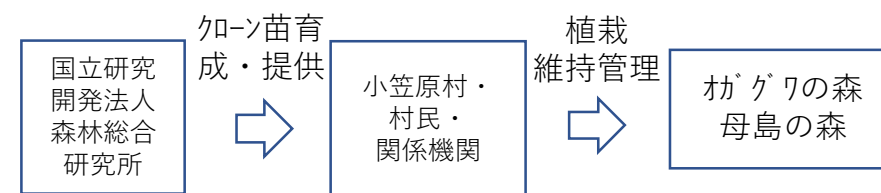
【事業費】3,466千円（うち2,067千円譲与税）

【実績】村民参加の植栽等イベント開催ほか、植栽用苗順化管理、在来植生回復調査、歩道補修など



（カグワの森の沢の生物観察イベントの様子）

事業スキーム



工夫・留意した点

苗の植栽のほか、森内で伐採した外来樹木を活用した階段づくりを行うなど、村民にとってより身近で親しみのある森づくりとなることを図った。

また、村民参加によるイベントの開催ほか、島内NPO法人による作業協力や都内大学のボランティア活動など外部団体の協力を得て森づくりを実施した。

基礎データ

①令和6年度譲与額	2,067千円
②私有林人工林面積（※1）	0ha
③林野率（※2）	6.7%
④人口（※3）	2,929人
⑤林業就業者数（※4）	11人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2020農林業センサス」より、※3、4：「R2年国勢調査」より